

前回の続きでアメリカ・ツアー本編になる(ならない可能性もあり)。東京に前泊して京急を使い、羽田国際線ターミナルまで向かった。十勝・音更から1名、カーリングで有名な北見市常呂からの2名も空港近くのホテルで前泊した。吹雪などの冬の気象変化に対応するためだ。そして出発の日を待った。音更の方は自腹で買ったフルフラットになるデルタ航空のビジネスクラスで、私は2年間貯めたマイルで同じビジネスクラスのシートに腰を沈めることになる。

90年代のビジネスクラスのシートは幅が広くても、リクライニングが十分ではなかったり、奥行きも今のプレミアムエコノミーに毛が生えた程度だった。それが2001年の911のテロ以降の国際線利用の落ち込みで、特にデルタは90年代当時からのファーストクラスのシートをビジネスクラスに導入した。快適差においては隔世の感があるといえる。

すべてではないが航空連合のワンワールド系のアメリカン航空やキャセイ航空のフルフラットシートの足元は外側(機体外壁)を向いているが、デルタの場合はシートが通路側に向いているのでCAと目線が会うことが多い。サービスはよくいえば金髪・ブルーアイのベテランだが、

ほぼ100%がミドル級クラスで元キャワイイ系になる。

羽田国際線ターミナルに到着して3名と待ち合わせ、デルタのカウンターでスムーズに手続きを済ませ、その後、出国手続きをする。

以前から話があるブリクリアランスと呼ばれる便利なシステムはご存じだろうか。すでにカナダの一部の空港からアメリカに飛行機で向かう場合に実施されている。アメリカ到着後に、あのシート長(イイミグレレーション(入国審査)に並ばずに、羽田や成田でアメリカの係員によって事前入国審査を受けるシステムだ……という話が漏れ聞こえて、早3年経つが一向に実施される雰囲気がないのは残念だ。

電子渡航認証システム ESTAA(エスタ)

アメリカ入国にESTAAなるものが必要なことは渡米経験がある方はご存じだろう。最低72時間前にアメリカ合衆国土安全保障省のサイトから必要事項に記入していくもの



アメリカに行ってきた 3



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

だ。記入する名前のアルファベットはパスポートと同じであること、間違った場合は再度14ドルの申請料金を支払い、初めからやり直さなければならぬ。しかし現実の運用は違った。この1月にESTAAの申請を確認したところ私の名前が出てこない。一昨年に農場従業員とアメリカ50州目のところに行つた時にESTAAの申請は従業員に任せた。その時の申請した

**オレにも
言わせる!**

**北海道長沼発
ヒール・ミヤイの憎まれ口通信**

コピーがあつたので確認した。パスポート番号よし、生年月日合ってる、あれ? 名前が違ったのだ。名前の最後にAが余分に付いていた。

訂正できないので、新規のESTAを取得しようかと思つたが、一度使つて問題なかったのだから、今回も大丈夫だろうと思ひそのままにして入国した。その結果は……なんの問題もなく入国できました! さすが合衆国国土安全保障省さんです。

こんな経験をしたこともある。02年に叔父、叔母とアメリカに行った時に私の名前はYOSHIMASA A、叔父はYOSHINOBUだ。私がビジネスクラスでチェックインする時に叔父のパスポートも一緒に提出したところ、デルタの係員が「似たような名前だな、面倒だから二人ともビジネスクラスにするわ」となったこともあつた。

この価格差、ちよひん 考えろみくぐだせろ

話は少し飛ぶ。97年6月にカナダ・マニトバ州・ウィニペグ近くをレンタカーで運転していたところ頭痛になつたので風邪かと思ひ、コンビニで日本では定番のパファリンを買おうとしたが、店員が「パファリンは今いろいろ問題があるからここでは買う人はいない。タイレノールの方が間違いないわよ」となり、まだ日本で販売されていなかったタイレノールにした。物を購入する時はあれこれ悩むよりは現地で一番人気の物にする選択の方が、賢い行動である場合がほとんどだ。もともと英語もイングリッシュもドイツ語もフランス語もできない前頭葉の持ち主が多い農業界でも物の選択をする場合は同じことになるのだろう。

それにしてもタイレノールのアメリカ店頭価格と日本の価格では天と地の差がある。日本では20錠で1000円だが、アメリカでは子供が間違つて開けることができないキャップタイプの24錠で5ドルだ。成分は同じアセトアミノフェンで日本は300mg/錠、アメリカでは500mg/錠だ。賢い皆さんだったら計算できますよね?

鼻炎用のクラリチンも昨年から国内の薬局で販売可能になつたが、成分のロラタジン10mg、7錠で1500円になる。アメリカでは普通にドラッグストアで販売しているクラリチンは同じ成分の物が30錠で20ドルだ。この価格差をちよひんと考えてみてほしい、農薬でも同じですよ。

誰がこれらの薬や農薬を考へて、作つて、安全性審査をして日本の何百倍のマーケットに販売してきたのだろうか。その過程において、日本

人だけの安全、という単語は含まれません。一部の消費者は安全がながしと声高々に叫んだところで世界の基準は違ふところにあるのです。

確かにアメリカの医療費は高いといわれますが、風邪や頭痛程度のことであれば自分で管理できるし、その経費はアメリカの方が安上がりなのです。生活費に占める医薬品代は高くないかもしれませんが、日々あなたの身近に存在するものすべてがアメリカで販売されている物よりも明らかに高額なのです。

その意味では可処分所得などと難しい言葉を使わなくても、日本はまだまだ物質文明からは程遠いといえるでしょう。「いやそんなことはない!」と言うやつは単純に小作人根性の持ち主か自民党支持の共産主義者だ。

睡眠導入剤で 快眠渡米

話を少し戻そう。国際線の飛行機に乗り込む時に必ず持ち込むものがある。睡眠導入剤だ。98年6月にアメリカ・ウィスコンシン州・オシユコシヨ空港にいた時に軽く頭痛がしたので近くのドラッグストアでタイレノールを買った。このタイレノールはいくつかの種類があり、その中で私はタイレノールPMを選んだ。

午後だったのでPMにしたのだ。

食事をしてホテルに戻り、先ほど購入したタイレノールPMを飲むだ。30分ほどして寝たのだろう。ハッと目を覚ますと8時間経つた朝だった。ビックリだ。いつも夢を見る私がそれもなくて目が覚めると、ここはどこ? 私は誰? 状態だった。一体全体何が起きたのか理解できなかった。もしや昨晚飲んだタイレノールが効きすぎたのだろうかと考えたが、たしか1錠しか飲んでいないのに……。そういえばいつものタイレノールと違った名前だったなとラベルを注視するとそこにはPain Relieverの横にNight Sleep Aidの文字が。どうもタイレノールの成分に睡眠導入剤が入っていたようだ。

就眠中に夢をコントロールできるくらい自分の睡眠の質は良くないのだが、タイレノールPMを間違つて飲んだ翌朝の爽快感はすごかった。この成分も2003年から国内ではドリエルの商品で販売されている。私はタイレノールPMを飛行機に乗り込み食事が始まる時に1錠飲み、到着30分前にデルタの元キャワイイ系CAさんに起こされ、すっきりした気分が入国できる。

おっとアメリカ本編は次回のお楽しみということだ。(つづく)